

問題用紙

令和8年度大学院獣医生命科学研究科
獣医保健看護学専攻博士前期課程
第1次入学試験問題用紙

受験番号	
------	--

野生動物学

問題) 気候変動が野生動物に与える影響を論ぜよ

令和8年度日本獣医生命科学大学
大学院 獣医生命科学研究科

獣医保健看護学専攻博士前期課程
第1次学力試験

野 生 動 物 学

「解答例」

気候変動は近年、地球規模で進行しており、気温上昇、降水量の変化、極端な気象の頻発、海氷や氷河の減少などを通じて生物および生態系に深刻な影響を与えている。野生動物はそれぞれの環境に適応して進化してきたため、環境条件の急激な変化は分布や行動、繁殖に大きな影響を及ぼすことが予想される。たとえば、分布域の変化が考えられる。気温上昇に伴い、多くの動物は高緯度や高山域へと分布を移していることが報告されている。そして、山岳地帯や島嶼に生息する種は生息可能なニッチが限られており、分布域の縮小や孤立化を招いている。また、繁殖や生活史の変化が気候変動によって生じるだろう。気温や季節の変化により、繁殖期や渡りの時期が前倒しになるなど、フェノロジーの変化が観察されている。例えば一部の鳥類では、昆虫の発生時期と雛の給餌時期がずれるミスマッチが生じ、繁殖成功率が低下している。哺乳類においても、食物供給の季節性が変化することで繁殖や子育てに影響が報告されている。さらには、気候変動によって餌資源の変動が深刻であろう。代表的な例としては、北極圏のホッキョクグマが挙げられる。海氷減少によりアザラシを捕食する機会を失い、餌不足に直面している。陸上に残り残された個体は人間の居住地に出没し、廃棄物を漁るなど、人間社会との軋轢を増大させている。こうした事例は、気候変動が野生動物と人間社会の関係にも影響を及ぼすことを示している。最後に、生態系相互作用の変化や、温暖化により病原体や寄生虫の分布が拡大し、新たな感染症リスクが野生動物に及ぶ可能性も指摘されている。以上のように、気候変動は野生動物に対して分布域の変化、繁殖や生活史の変化、餌資源の変動、生態系相互作用の変化など多方面に影響を及ぼしうる。これらの影響は複合的に作用するため、単一の要因としてではなく総合的に理解する必要がある。今後は、分布変化を予測するモデル研究や長期モニタリングを進めるとともに、生態系回廊の整備や保護区の設置など、適応的な保全戦略を展開することが求められる。気候変動という地球規模の課題に対して、科学的知見と社会的取り組みを統合することが、今後ますます野生動物の保全するうえで重要になると考える。

令和8年度日本獣医生命科学大学
大学院 獣医生命科学研究科

獣医保健看護学専攻博士前期課程
第1次学力試験

野 生 動 物 学

「出題意図」

この問題では、気候変動が単なる気温上昇の問題としてではなく、生物の分布、繁殖・生活史、餌資源、生態系相互作用など、複数の側面から捉えることを意図する。さらに、これらの影響が相互に関連し、野生動物だけでなく人間社会にも波及することを理解したうえで、今後どのような保全対策が必要なのかを考えてもらうことを目的とする。